

日本共産党府中市議団の一般質問

インボイスはストップを！ 竹内祐子議員



一般質問
動画配信

消費税率10%への引き上げに伴い、2023年10月から「インボイス(適格請求書)制度」の導入を国は計画しています。しかし、この制度が導入されれば、中小零細事業者などに新たな事務負担と増税分負担が生まれ廃業を迫られる事態になる、とんでもない制度だと多くの事業者から声が上がっています。制度の紹介については「STOP!インボイス」のサイトをご参考ください。



消費税法では年間売上1000万円以下の場合、事務負担軽減のために消費税の納税が免除されています。インボイス制度では、立場の弱い事業者は取引相手の裁量によって税負担を求められたり、価格からの値引きを要求されるおそれがあります。制度の導入によって161万を超える事業者が消費税の負担を迫られることとなります。

シルバー人材センターの会員の収入にも影響が出ます。府中市シルバー人材センターの会員

数は2022年1月現在で1989名。インボイス制度が導入された場合の影響額は、2023年~2026年の間には約1200万円ですが、2029年以降は毎年約6000万円もの新たな消費税納付が生じると試算されており、額はシルバー人材センターの収入全体の約43%であると答弁がありました。この税負担は、会員の手元にくるはずの配分金から支払われる可能性があることも明らかになっています。フリーランスなど小規模経営で働く人の立場をさらに追い詰め、廃業も考える人を生み出す国の政策は、弱い立場の人を支援する政治とは逆行するもので中止するべきであり、市から中止を要望することを求めました。また府中市商工会議所もインボイス制度の導入は「凍結すべき」という見解を示しています。

市はインボイス制度自体の周知や理解が進んでいないことも課題として捉えています。わたしたち市民もインボイス制度を学び、地域で働く人を応援するためにも、制度中止を世論にしていくことが重要です。

中河原駅、臨時改札の常時開設を！ 赤野秀二議員



一般質問
動画配信

京王線中河原駅臨時改札口は、朝7時から2時間だけ、係員を配置し開設されていました。最近になって、6時半の改札開始に改善、更に係員の居ないインターホン改札となっています。

このインターホン改札化は昨年4月から開始され、利用者はインターホンで駅事務所にいる係員と対話する仕組みです。これまで、新宿駅から京王八王子駅までの京王線34駅のうち10駅で、主要改札以外の改札口に「インターホン改札」を運用(うち6駅は1年以内に整備)しています。

赤野議員は、「調布市・柴崎駅北口の臨時改札は、2008年から終日改札になっていたが、インターホン改札化され、その後も引き続き終日改札で運用されている」と紹介しました。その上で、「中河原駅もインターホン改札となり、終日係員配置による人件費増の課題は解消している。臨時改札の常時開設化を改めて市から京王電鉄に働きかけを」と求めました。



市からは、「常時開設は継続的に要望している。インターホン化は直近1年程度の間複数駅で行われており、中河原駅臨時改札口の常時開設について、改めて中河原駅の利便性の向上に係る取組について検討したい」との答弁でした。

赤野議員は、「現在入場のみとなっている臨時改札を常時開設化するとともに、下りホームへの接続も行って欲しい。臨時改札の改善は、中河原駅の利便性を大幅に向上させ、駅のイメージアップにもつながる。京王電鉄にもメリットがあると考えます。市として京王電鉄へ積極的に働きかけて欲しい」と重ねて要望しました。

西武多摩川線競艇場前駅の駐輪場が安全に使いやすくなりました！



西武多摩川線の競艇場前駅にある自転車駐輪場が整備され、2022年春から拡張されました。

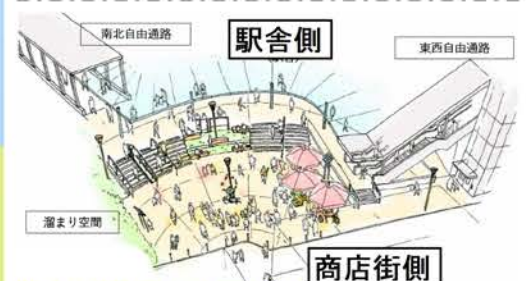
2021年6月市民から「駐輪場を出て道路を渡るので危ない」「車がスピードを出して通るので危険に感じる」といった声が竹内議員に寄せられました。すぐに現地を確認し西武鉄道と府中市に対して改善要望を行いました。敷地内にある空地を活用し駐輪場を拡張すれば安全性が確保できるのではと求めたところ、市交通安全対策課を通じて西武鉄道から調査の回答があり、2022年度予算で拡張工事が行われました。新たに駐輪場から駅舎に向かう動線も確保されています。引き続き周辺での交通安全を求めるとともに、市民要望の実現に取り組みます。地域の課題など、お気軽にご相談をお寄せください。

住民への情報開示 これでいいの 分倍河原駅周辺まちづくり

予算委員会・総括質問

分倍河原駅周辺まちづくりでは、計画の全体像が住民や議会へ説明されていない中で、用地取得に向けて地権者への接触が始まっています。この問題で赤野議員が総括質問を行いました。

分倍河原駅周辺まちづくりでは、計画の全体像が住民や議会へ説明されていない中で、用地取得に向けて地権者への接触が始まっています。この問題で赤野議員が総括質問を行いました。



駅前空間のイメージ図
(分倍まちづくりニュースより)

質問「権利関係者との協議を先行」しているが、全体的な事業内容の説明がなされない中で、話を持ってこられることに対する不安の声が地権者からも出ている。市は、このような不安にどのように応えるのか」

答弁「まちづくり協議会から、関係権利者には慎重な対応を求められていることも踏まえ、地域全体への情報発信に先んじて、本事業により生活環境に大きな影響が及ぶ関係権利者へ説明す

る必要があると捉えている。しかし、関係権利者が抱える不安に対しては真摯に受け止め、引き続き丁寧に対話を進めたいと考えている」

質問「議会への説明は、『鉄道事業者との協定締結が9月に実現の運びになってから』との答弁だが、決まってからでは遅い。既に様々な図など資料が、オープンハウス等で示されているが、議員には正式に示されていない。多額の市費が投入される事業なのに、資料も示さず、質疑も行えない。直ちに現段階のものを説明するべきではないか」

答弁「現在は、協議会をはじめ地域住民や関係者との意見交換を行っている段階で、まちづくりの更なる機運醸成を図っている。今後、基本協定の締結や設計作業の完了など主な施策の進捗状況に応じて、適宜適切な時期に議会へ報告する」

赤野議員は、「多くの市民に影響する事業なのに、十分に情報提供されていない。市民の不安に伝えるためにも全体像をしっかりと説明する必要がある。議会に対しても速やかに現状を報告すべきだ。今の状況は、議会軽視だと言わざるをえない」と結びました。

主な議案に対する各会派の態度

	一般会計 予算	府中市子育て 世代包括支援 センター条例	後期高齢者 医療特別 会計予算
日本共産党	×	×	×
生活者ネット	×	×	○
市政会(自民党)	○	○	○
市民フォーラム	○	○	○
公明府中	○	○	○
自由クラブ	○	○	○
都民ファースト	○	○	○
市民の風	×	○	○
結果	可決	可決	可決

○：賛成 ×：反対